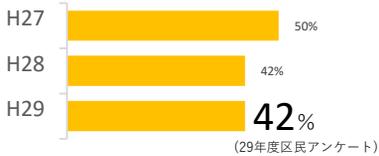
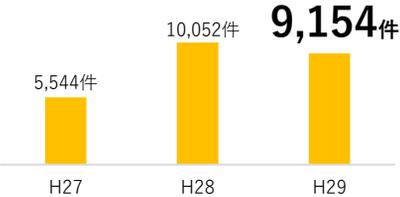
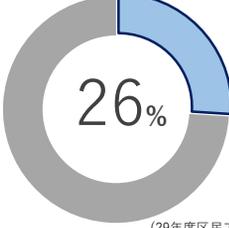


経営課題 2 人と人がつながり、助け合うまちづくり

<p>コミュニティ豊かなまちづくり</p>	<p>いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり(健康・福祉)</p>	<p>いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり(子育て支援)</p>
<p>めざすべき将来像 最終的なめざす状態<概ね10~20年間を念頭に設定></p> <p>これまで培われてきた人と人との「つながり」や「きずな」を礎にしながら、若い世代やマンション住民など、より幅広く人と人がつながり、身近な地域の中で生活課題の解決に取り組むなど、地域コミュニティが活性している状態</p>	<p>めざすべき将来像 最終的なめざす状態<概ね10~20年間を念頭に設定></p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なところに福祉の相談窓口があり、気兼ねなく利用できる状態 区民がいきいきと健康で生活することができる状態 	<p>めざすべき将来像 最終的なめざす状態<概ね10~20年間を念頭に設定></p> <ul style="list-style-type: none"> 母乳・授乳や育児について相談しやすい環境が整い、育児不安が解消され、いきいきと健康に暮らせる状態 子育て世代の保護者が、身近なところから支援を受け、子育てを楽しんでいることができる状態
<p>現状 <課題設定の根拠となる現状・データ></p>	<p>現状 <課題設定の根拠となる現状・データ></p>	<p>現状 <課題設定の根拠となる現状・データ></p>
<p>身近な地域でつながりに関して肯定的に感じている区民の割合</p>  <p>H27 50% H28 42% H29 42% (29年度区民アンケート)</p> <p>各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じている区民の割合</p>  <p>48% (29年度区民アンケート)</p>	<p>地域福祉コーディネーターによる相談・訪問等活动件数</p>  <p>H27 5,544件 H28 10,052件 H29 9,154件 (29年度区民アンケート)</p>	<p>「子育て支援室」を知っている区民の割合</p>  <p>26% (29年度区民アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活に関する実態調査(速報値)において「だれにも相談できない」と回答した子どもの割合が、本市平均15.9%を上回っている。
<p>要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果></p>	<p>要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果></p>	<p>要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果></p>
<ul style="list-style-type: none"> 個人の生活様式や価値観の多様化により、人と人とのつながりの希薄化が進んでいる。 担い手・参加者が固定化しており、従来型の画一的な地域活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの希薄化を背景に、年々、課題が複雑化・多様化・深刻化している。支援機関の窓口が多岐にわたることが多く、支援につながらず、地域で埋もれている要援護者は多数いると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに不安のある保護者が、相談できる場所が分からず地域で孤立する傾向にある。 当区における不登校の要因は、貧困を含む家庭基盤の脆弱さやいじめ等様々であり、複雑化している。
<p>課題 <上記要因を解消するために必要なこと></p>	<p>課題 <上記要因を解消するために必要なこと></p>	<p>課題 <上記要因を解消するために必要なこと></p>
<ul style="list-style-type: none"> これまで地域と関わりが少なかった若い世代やマンション住民をはじめ、人と人がつながる機会の提供が必要である。 地域課題に対応した活動の実施に向けた支援などを行い、住民主体の自律的な地域運営を推進することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑化・多様化・深刻化する課題に対応するため、関係機関等と連携し、必要な支援をコーディネートする体制が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに不安のある保護者が孤立することを防ぎ、子育ての負担感・不安感を軽減するため、地域の子育て情報を周知するとともに、相談窓口を拡充する必要がある。 貧困を含む家庭基盤の脆弱さ等を起因とする不登校については、学校だけの対応では解決が困難である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

(コミュニティ豊かなまちづくり)
区民まつりをはじめ、つながりづくりを目的とした事業には多くの区民等が参加されており、前年度以上の成果を得ることができた。各具体的取組の目標は達成しており、長期的視点での継続的取組が必要である。

また、地域活動協議会により自律的な取組が着実に進められているが、担い手の固定化などに伴う属人的要素によって維持されている面もある。引き続き組織運営のマニュアル化などを促すとともに、地域活動に関わりの薄い住民の参加促進などを通じ、自律運営が安定的・継続的なものとなるよう支援していく。

(いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり：健康・福祉)
地域福祉コーディネート事業については、認知度は向上したが、目標に到達しなかった。「身近な相談窓口」として、認知度向上のため、広報活動等に努めていく。

(いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり：子育て支援)
子育て相談体制の充実について、地域の子育て情報の周知や相談窓口の拡充を積極的に行い、業績目標は達成できた。子どもの成長とともに変化する子育てに関する様々な相談に対応するため、継続して取り組みを進めていく。SSW(スクールソーシャルワーカー)による相談支援体制の強化については目標に到達しなかったが、引き続き、SSWと学校の協働体制や教員のSSWの認知度向上をより一層促進するよう取り組んでいく。



2-1 コミュニティ豊かなまちづくり

めざす状態 ＜概ね3～5年間を念頭に設定＞	戦略＜中期的な取組の方向性＞	戦略の進捗状況	戦略のアウトカムに対する有効性	課題											
<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感できる状態 様々な活動主体が互いに協働し、住民主体の自律的な地域運営が進められている状態 	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催などにより、これまで地域との関わりが少なかった若い世代やマンション住民も参加する、人と人がつながる機会を提供する。 地域課題に対応した活動の実施に向けた支援を行い、住民主体の自律的な地域運営を推進する。 	順調	有効であり、継続して推進する	—											
アウトカム(成果)指標＜めざす状態を数値化した指標＞		<table border="1"> <thead> <tr> <th>前年度</th> <th>今年度</th> <th>個別評価</th> <th>全体評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39%</td> <td>41%</td> <td>順調</td> <td rowspan="2">順調</td> </tr> <tr> <td>49%</td> <td>51%</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table>		前年度	今年度	個別評価	全体評価	39%	41%	順調	順調	49%	51%	順調	今後の対応方向 —
前年度	今年度	個別評価		全体評価											
39%	41%	順調	順調												
49%	51%	順調													
身近な地域でつながりに関して肯定的に感じる区民の割合 3年度までに47%以上 各団体により地域の特性や課題に応じた活動が進められていると感じる区民の割合 3年度までに50%以上															

具体的取組2-1-1 地域コミュニティの推進

29決算額	7,424千円	30予算額	7,651千円	元予算額	8,071千円
取り組むこと					
区民まつりを区民参画型で開催し、区民が企画、運営、広報などを主体的に行えるよう実行委員会を支援することで、人材育成、交流促進、コミュニティ育成につなげる。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
区民まつり 1回	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ・1回(9月)参加者約32,000人 参画者2,002人			
プロセス(過程)指標 ＜取組によりめざす指標＞	中間振り返り	達成状況			
地域とつながる機会となったと感じる参加者の割合 73%以上 【撤退・再構築基準】40%未満	目標達成見込	目標達成(90%)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	—			
年度末	有効	—			
前年度までの実績					
30年度実績 ・区民まつり(9月) 参加者約32,000人、参画者1,913人 ・前夜音楽祭(9月) 雨天のため中止					

具体的取組2-1-2 地域活動協議会の活動支援

29決算額	35,922千円	30予算額	37,214千円	元予算額	37,385千円
取り組むこと					
地域活動協議会の活動を支援し、自律的な地域運営を促進する。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
①地域活動協議会補助金の交付による財政的支援 9地域 ②中間支援組織による活動の支援	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ①9地域 ②計画どおり実施			
プロセス(過程)指標 ＜取組によりめざす指標＞	中間振り返り	達成状況			
地域活動協議会の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じた割合 85%以上 【撤退・再構築基準】40%未満	目標達成見込	目標達成(85%)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	—			
年度末	有効	—			
前年度までの実績					
30年度実績 ・地域活動協議会補助金の交付 9地域 ・中間支援組織による活動の支援 地域課題やニーズに対応した活動の実施に向けた支援 多様な活動主体の連携・協働に向けた支援 会計事務や組織運営の適正化に向けた支援					

2-2 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり(福祉・健康)

めざす状態 <概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>	戦略の進捗状況	戦略のアウトカムに対する有効性	課題
・福祉に関する相談窓口があり、必要な支援が見つかるなど、課題改善に向かって いる状態 ・母乳育児等に関する育児不安が軽減され、親子の健全な絆が育まれるとともに子どもの安らかな発達が促進される状態	・地域における身近な福祉課題への相談体制を強化する。 ・ワーキングマザーなど様々なライフスタイルに応じた支援体制や、身近な授乳や子育ての相談体制を整備する。	順調	有効であり、継続して推進	-
	アウトカム(成果)指標<めざす状態を数値化した指標>	前年度 今年度 個別評価 全体評価		今後の対応方向
	地域福祉コーディネーターの認知度 3年度までに50%以上	21% 31% 順調 順調		-
	3か月健診時に子育てが不安と回答した母親の割合 3年度までに 10%以下	9% 7% 順調		

具体的取組2-2-1 地域福祉コーディネーターによる福祉相談の充実や見守り体制の強化

29決算額	13,747千円	30予算額	13,347千円	元予算額	13,012千円
取り組むこと					
地域の身近な相談窓口、関係機関とのつなぎ役や制度の狭間に埋もれている人を発見する機能のほか、「要援護者の見守りネットワーク強化事業」との連携により、見守りの体制を強化する。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
地域福祉コーディネーター ①9地域10名 ②訪問・相談等 年間240日 ③要援護者名簿の管理や整備、見守りの担い手の調整等	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ①9校下10名 ②③計画どおり実施			
プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>	中間振り返り	達成状況			
地域福祉コーディネーターによる相談・訪問等活動件数 年間9,000件以上 【撤退・再構築基準】5,500件以下	目標達成見込	目標達成(10,831件)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	-			
年度末	有効	-			
前年度までの実績					
30年度実績 ・地域福祉コーディネーターによる相談・訪問等活動件数 9,025件					

具体的取組2-2-2 妊娠期からの親子のきずなはぐくみ支援

29決算額	621千円	30予算額	729千円	元予算額	704千円
取り組むこと					
就労妊婦や多胎妊婦が不安なく出産・育児が行えるよう支援するとともに、産後の授乳や子育てについて相談しやすいよう身近な地域等で講座や教室を行う。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
①プレワーキングマザー対象出産直前講座 6回(土曜日午前)巡回 ②母乳子育て教室 概ね毎月3回30回程度 ③ふたごちゃん・みつごちゃんのプレパパプレママ教室 2回	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ①5回 156人参加 ②28回 304人参加 ③2回 10人参加			
プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>	中間振り返り	達成状況			
育児に関して役に立ったと回答した参加者の割合 80%以上 【撤退・再構築基準】50%未満	目標達成見込	目標達成(94%)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	-			
年度末	有効	-			
前年度までの実績					
30年度実績 ・プレワーキングマザー対象出産直前講座 6回 210名 ・母乳子育て教室 31回343名 ・ふたごちゃん・みつごちゃんのプレパパプレママ教室 2回					



2-3 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり(子育て支援)

めざす状態 ＜概ね3～5年間を念頭に設定＞	戦略＜中期的な取組の方向性＞	戦略の進捗状況	戦略のアウトカムに対する有効性	課題														
<ul style="list-style-type: none"> 身近なところに福祉の相談窓口があり、気兼ねなく利用できる状態 保護者が、子育て(0歳から18歳)の不安を感じた時、すぐに相談できる状態 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに不安を持つ保護者等が気軽に相談できるよう、身近なところで子育て相談等を実施するとともに、子育て相談窓口を周知する。 不登校等の要因を顕在化させ、家庭的な要因等に社会的資源やネットワークを活用して対応する。 	順調	有効であり、継続して推進	—														
				アウトカム(成果)指標＜めざす状態を数値化した指標＞	<table border="1"> <thead> <tr> <th>前年度</th> <th>今年度</th> <th>個別評価</th> <th>全体評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>75%</td> <td>順調</td> <td>順調</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>67%</td> <td>順調</td> <td>順調</td> </tr> </tbody> </table>	前年度	今年度	個別評価	全体評価	—	75%	順調	順調	—	67%	順調	順調	今後の対応方向
				前年度	今年度	個別評価	全体評価											
—	75%	順調	順調															
—	67%	順調	順調															
子育てに不安を感じたときに相談するところがあると回答した区民の割合 3年度までに60%以上 児童生徒に関する課題解決のための相談先としてスクールソーシャルワーカーが有効に機能していると回答した学校の割合 3年度までに60%以上	—	—	—															

具体的取組2-3-1 子育て相談体制の充実

29決算額	3,043千円	30予算額	3,137千円	元予算額	3,312千円
取り組むこと					
子育ての不安感や負担感を軽減するため、様々な機会をとらえて相談できる窓口等を周知し、相談に応じる。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
健診や関係機関訪問等での子育て支援室の周知 50回以上	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ・93回 (子育てサロン訪問、乳幼児健診、その他子育て支援施設訪問)			
プロセス(過程)指標 ＜取組によりめざす指標＞	中間振り返り	達成状況			
子育て支援室での相談件数 400件以上 【撤退・再構築基準】200件未満	目標達成見込	目標達成(638件)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	—			
年度末	有効	—			
前年度までの実績					
30年度実績 ・健診や関係機関訪問時と子育て支援室での子育て相談件数 626件					

具体的取組2-3-2 SSW(スクールソーシャルワーカー)による相談支援体制の強化

29決算額	3,456千円	30予算額	3,493千円	元予算額	3,448千円
取り組むこと					
不登校等の課題解決に向けて、SSW1名を子育て支援室に配置し、区内各校を巡回訪問し、解決を図る。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
SSW ・区内小・中学校(14校)対応 ・巡回訪問等 160日	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ・14校対応 ・162日			
プロセス(過程)指標 ＜取組によりめざす指標＞	中間振り返り	達成状況			
SSWが対応したケース 60件以上 【撤退・再構築基準】30件以下	目標達成見込	目標未達成(56件)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	—			
年度末	有効	SSWが対応したケース数は目標に達しなかったが、学校からは有効に機能しているとの評価はあるため、引き続き取組を促進していく。			
前年度までの実績					
30年度実績 ・SSWが対応したケース 67件					

経営課題 3 明日に誇れるまちづくり

魅力あるまちづくり

めざすべき将来像

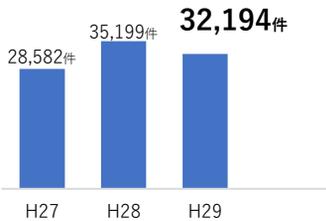
最終的なめざす状態<概ね10~20年間を念頭に設定>

まちの魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態

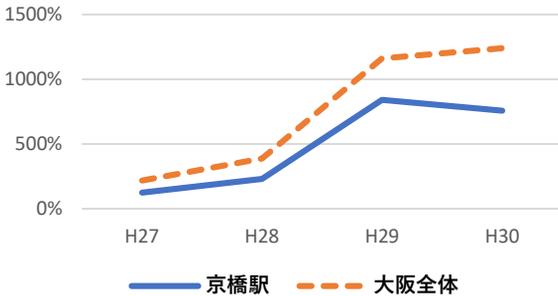
現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

水辺を活かした新たな名所「大阪ふれあいの水辺」の利用者数など

大阪ふれあいの水辺 利用者数推移



Osaka Free Wi-Fi 認証数増加率(開設当初比)



要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

- 都島区の恵まれた自然環境、立地条件、歴史文化などの資源、京橋が有する主な観光地とのネットワークなどを十分に活かされていない。
- 区外、区内への情報発信が不足している。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

- 恵まれた地域資源を活かし、さらに魅力あるまちづくりにつながるため、区民の気運を醸成し、民間活力を活かすための仕組みづくりやサポートが必要である。
- 京橋をはじめ、地域のにぎわいづくりの取組を支援するとともに、様々な方法での情報発信が必要である。

未来の都島を担う人材育成

めざすべき将来像

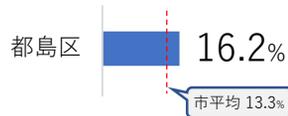
最終的なめざす状態<概ね10~20年間を念頭に設定>

経済状況や家庭環境に左右されることなく、すべての子どもの可能性が最大限活かされる状態

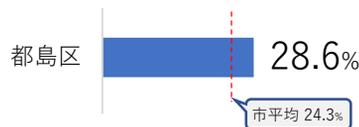
現状 <課題設定の根拠となる現状・データ>

「子どもの生活に関する実態調査」保護者(小学5年生)が回答(28年度実施)

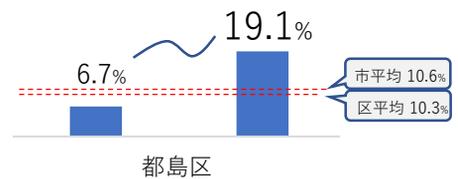
子どもの将来に期待していない



子どもを学習塾に通わせることができなかった(困窮度1)



子どもを学習塾に通わせることができなかった(区内小学校区の平均幅)



要因分析 <めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果>

- 当区では、困窮度が高い世帯において、特に学習面での機会の差を感じている保護者が多く、このことが児童の勉強時間や学校の勉強の理解度にも影響を及ぼしている。
- グローバル化が進展し、2020年度から小学5~6年生で英語教科化、3~4年生で外国語活動開始が予定される中、グローバル化時代に求められる実践的なコミュニケーション能力を育む機会が留学等の手段に限定されている。

課題 <上記要因を解消するために必要なこと>

- 経済的な理由等で学習面での機会が少ない児童に対する直接的な支援が必要である。
- 小・中学生が、異文化を体験し、自ら積極的にコミュニケーションを図ることができるきっかけづくりに取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

(魅力あるまちづくり)

区の魅力発信では、これまでのビーチパレー大会に加えて、地引網やビーチスポーツを体験できるビーチフェスティバルなど民間主体の賑わいづくりが着実に進んでいる。また、YouTubeやケーブルテレビ等での積極的な魅力発信を行った。YouTubeの再生回数は30年度を上回ったが、目標値には達しなかったため、今後、新規動画の制作等により、更なる区の魅力発信に取り組む。

区の特徴ある文化資源を活かした青少年育成では、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、発表会の開催など一部事業を中止した。当該事業については、プロによる芸術文化の技術指導を行ったが、基本的な技術指導に留まり、アンケート結果からも、作品理解には至らなかったことから、令和元年度をもって終了する。

(未来の都島を担う人材育成)

小学生の放課後学習支援においては、2校において補修学習会を行った結果、具体的な取組における指標は未達成となったものの、「学校の授業がよくわかる」と回答した参加児童の割合は増加しているなど、学習する力が身に付いたと言える。また、グローバル化時代に必要なコミュニケーション能力の育成においては、異文化と触れ合う交流機会を提供し、参加児童・生徒の積極性を育んだことによって、具体的な取組における指標を達成できた。



3-1 魅力あるまちづくり

めざす状態 <概ね3～5年間を念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>	戦略の進捗状況	戦略のアウトカムに対する有効性	課題				
<ul style="list-style-type: none"> 毛馬桜之宮公園を中心とした水辺、まちの賑わいづくりの活動が民間主体により継続的に実施されている状態 区民が区の歴史文化資源等を認識し、区に愛着を持っている状態 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携・協働したイベントや情報発信による機運づくりにより、水辺のまちづくり、地域の活性化を進める。 区の歴史文化資源の発信を行うとともに、区民が関心を持っている事業を展開する。 	順調	有効であり、継続して推進	<ul style="list-style-type: none"> 秋・冬の水辺の利活用が低調である。 				
		アウトカム(成果)指標<めざす状態を数値化した指標>		前年度	今年度	個別評価	全体評価	今後の対応方向
		民間主体による水辺を活用した賑わいづくり事業の実施 3年度までに30件以上		17件	15件	順調でない	順調	<ul style="list-style-type: none"> 一年を通した多彩な利活用を促すため、ニーズを掘り起こす。
区に愛着を感じる区民の割合 3年度までに80%	—	88%	順調	順調				

具体的取組3-1-1 区の魅力発信

29決算額	1,065千円	30予算額	203千円	元予算額	197千円
取り組むこと					
与謝蕪村・毛馬きゅうり等、区の歴史・文化などの魅力を発信する。また、ビーチバレー女子大会等を共催するほか、イベントの側面支援を通じ、民間活力による水辺のにぎわいづくりなどを進め、魅力向上につなげる。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
①区の歴史・文化などの魅力発信 通年 ②スポーツイベントの共催・協力 1回 ③大阪府などと連携した民間団体によるイベントの側面支援 通年 ④京橋活性化等に取り組む関係者のコーディネート 通年	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施 ①ケーブルテレビ YouTube等で発信 ②③ビーチバレー、ビーチフェスティバルの共催等 ④通年			
プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>	中間振り返り	達成状況			
区YouTubeチャンネル上の区の魅力発信動画の年間再生回数の30年度比25%増 【撤退・再構築基準】前年度未達	目標達成見込	目標未達成(0.7%増)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	—			
年度末	有効	30年度の再生回数は上回ったが、目標値には達しなかった。今後、新規動画の制作等により、更なる区の魅力発信に取り組む。			
前年度までの実績					
30年度実績					
<ul style="list-style-type: none"> ビーチバレー大会の共催 8月 YouTube動画発信(ビーチバレー、蕪村踊り、毛馬きゅうりなど) 区役所デジタルサイネージにおいて動画コンテンツ放映 					

具体的取組3-1-2 区の特徴ある文化資源を活かした青少年育成

29決算額	-千円	30予算額	1,500千円	元予算額	1,500千円
取り組むこと					
世界的な音楽家「貴志康一」をはじめ、区の特徴ある文化資源を題材に、プロ(事業者)から作品理解・表現方法の指導を受け、地域の芸術文化に関する豊かな感性を持った青少年を育成する。					
計画(取組内容)	中間振り返り	年度末(取組実績)			
「まちを育む～中学校吹奏楽・合唱力向上事業」プロ(事業者)の作品理解・技術指導 ・参加中学校当たり2回以上	取組は予定どおり進捗	取組は予定どおり実施しなかった ・プロ(事業者)による4中学校への指導(計17回)			
プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>	中間振り返り	達成状況			
地域にゆかりのある芸術文化に対する興味がより深まったと感じる参加者の割合 70%以上 【改訂履歴あり】 【撤退・再構築基準】50%未達	目標達成見込	撤退基準未達成(45%)			
戦略に対する取組の有効性		課題と改善策			
中間	有効	プロセス指標について、前年度実績をふまえた設定となっていないため、前年度指標と同数値に変更する。			
年度末	有効でないため、取組を見直す	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、一部事業を中止した。当該事業については、基本的な技術指導に留まり、アンケート結果からも、作品理解には至らなかったことから、令和元年度をもって終了する。			
前年度までの実績					
30年度実績					
<ul style="list-style-type: none"> 作品理解・技術指導 5校 各2回以上(2月～3月) 区内ショッピングモールにおいて貴志康一の楽曲を含む発表会を開催(3月) 					